

第78回宮崎大学イブニングセミナー (Evening Seminar)

宮崎大学では、各学部等の研究者が各分野での研究内容やその研究成果等を理解し、協同した教育・研究等を実施する契機とするとともに、地域の皆様と本学の知的資源を共有し、地域社会との連携を一層深めるため、「宮崎大学イブニングセミナー」を開催いたします。多数ご来場いただきますようご案内申し上げます。

テーマ：『地元で光る大学病院の研究』



日 時：2019年10月10日（木） 17:30～19:00

場 所：宮崎大学医学部総合教育研究棟1階プレゼンテーションホール（清武キャンパス）

参加申込：事前申込み不要、参加費無料

司会 丸山 治彦（医学部研究担当副学部長・寄生虫学分野 教授）

開会挨拶

17:30-17:35 池ノ上 克（学長）

発 表

17:35-17:55 「頸動脈プラークの質的評価における定量的磁化率マッピングの応用」
東 美菜子（放射線科 助教）

17:55-18:15 「がん細胞を‘兵糧攻め’にする治療法の開発」
齋藤 祐介（小児科 講師）

18:15-18:35 「泌尿器癌におけるセリンプロテアーゼによる HGF/MET シグナル系の活性化とその制御について」
向井 尚一郎（泌尿器科 准教授）

18:35-18:55 「Nested-PCR 法を用いた眼感染症起因微生物の同定」
中山 恵介（眼科 助教）

閉会挨拶

18:55-19:00 水光 正仁（理事・副学長）

※セミナー終了後に懇親会を開催します。

ご参加いただける方は、10月2日（水）までに
担当へご連絡願います。

時間：19:15-20:00

場所：清武キャンパス学生食堂（生協）

会費：2,000円

※駐車場をご利用される場合は、駐車券をお持ちください。
無料化の手続きをいたします。

担当：宮崎大学研究推進課総務係

TEL：0985-58-2882

E-mail：ken-somu@of.miyazaki-u.ac.jp

第78回宮崎大学イブニングセミナー

テーマ：『地元で光る大学病院の研究』

1. 「頸動脈プラークの質的評価における定量的磁化率マッピングの応用」

東 美菜子（放射線科 助教）

近年開発された MRI 画像の一つである定量的磁化率マップ Quantitative Susceptibility Mapping (QSM) は、物質固有の磁化率値を定量的に評価することを可能にしたもので、中枢神経領域では、変性疾患における鉄の脳内沈着の評価、従来 MRI で不可能であった出血と石灰化の鑑別など、その有用性が数多く報告されています。現在、当教室では、病理学講座構造機能病態学分野、臨床神経科学講座脳神経外科学分野にご協力いただき、QSM を用いた頸動脈プラーク内の成分評価を行っており、その内容をご紹介します。

2. 「がん細胞を‘兵糧攻め’にする治療法の開発」

齋藤 祐介（小児科 講師）

がん患者は手術、化学療法、放射線治療などによって低栄養状態に陥りますが、がん細胞は極めて不利な栄養環境においてもエネルギー代謝を巧みに変化させることで生存・増殖することが可能です。小児科研究室では、主に白血病細胞が栄養飢餓状態で生き残る戦術を明らかにし、新規抗がん剤と輸液療法によってエネルギー枯渇させる‘兵糧攻め’治療モデルの確立を目指しています。本セミナーでは、がん治療の新たなブレイクスルーを目指す新規低分子化合物と輸液製剤の開発状況についてご説明します。

3. 「泌尿器癌におけるセリンプロテアーゼによる HGF/MET シグナル系の活性化とその制御について」

向井 尚一郎（泌尿器科 准教授）

癌細胞において、肝細胞増殖因子 (HGF) の受容体である MET の活性化がその浸潤や転移に促進的に作用していることが、これまでに報告された数多くの研究からほぼ明らかになりつつあります。当教室ではこれまでに病理学講座腫瘍再生病態学分野のご協力を得て、腎細胞癌、前立腺癌および膀胱癌における、その関連分子の発現と機能解析を行ってまいりました。MET を標的とした治療薬の開発が主流の中、あえてリガンドである HGF の活性化システムに着目し、その制御の重要性について現在検証を進めております。セミナーではその内容について紹介させていただきます。

4. 「Nested-PCR 法を用いた眼感染症起因微生物の同定」

中山 恵介（眼科 助教）

角膜炎や眼内炎に代表される眼感染症は、重症化すると著しい視力低下を不可逆的に引き起こすため、できるだけ早期から適切な治療を行う必要があります。最適な治療を計画する上で起因微生物の特定は非常に重要ですが、眼感染症患者から採取できる検体量は極めて少なく、塗抹検鏡や培養、従来の PCR 法では同定に至らない症例が数多く存在します。そこで当教室では、Nested-PCR 法を用いた同定系を独自に構築し、2015 年から現在までの間に 550 を超える検体について解析を行ってきました。セミナーでは、解析法の特徴と成果、さらに同法をベースにした新たな検体採取デバイス開発の取り組み等について紹介させていただきます。